

「看護の日」の活動を終えて

6月29日(金)、「看護の日」の活動として療養環境の整備を熊本医療センターで実施しました。3学年の学生全員でナイチンゲールの概念の基本に戻り、療養環境の整備をすることで、患者の生命力や回復意欲の向上を図ることを目的として取り組みました。

学生は、普段、臨地実習で病棟にいるときには気づくことができなかった環境の汚れに気づくことができました。また、見た目には汚れていない壁を雑巾で拭き上げると、思った以上に汚れているということを知りました。

患者様にとって病院は「生活の場」であるため、療養環境を常に清潔で快適な空間に保っておくことは、大切な看護のひとつです。学生は、療養環境の整備が、患者様の免疫力を高めること、慣れない入院生活の不安を軽減できること、負担のある治療でも前向きに取り組めるようになるといった患者様の回復を促す看護につながることを今回の経験をもってあらためて実感していました。また、ご家族にとっても自分の大切な家族が大切に看護されているという安心感につながるということに気づくことができました。

学生は、看護の日の活動を通して、療養環境を整えることが、看護において最も基本的で大切な看護であることを学びなおすことができました。また、3学年の学生全員での活動を通して、看護の心、ケアの心、助け合いの心を一人一人が分かち合うことができました。今後もこれらのことを忘れず看護に携わっていききたいという決意を新たにすることができました。

教員 石井美香子



診察待ちの患者様とご家族の気持ちを考えながら椅子を拭いている様子
【外来待合室】



「気持ちよく使って頂けますように」
【4Fトイレ掃除】